

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3473200313		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グル-プホ-ム よってきんさい府中		
所在地 (電話番号)	広島県安芸郡府中町山田2丁目6-9 (電話) 082-508-0811		
評価機関名	社団法人 広島県シルバー-サービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年4月8日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 3 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	4.08

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 2階建ての	造り 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 ~ 50,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有 (24万円・30万円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	6 名	男性 2 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	87.2 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴川内科循環器科・吉崎病院・くらた歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山裾の閑静な住宅地に、地域に密着したグル-プホ-ムとして約8年前に開設された。グル-プホ-ムとしてはまだ知名度も低く、苦難な時期も合ったようだが、地域の方々に認知され、現在は家庭的なホ-ムとして地域住民に支えられ、今求められる地域密着型施設として、事業所の運営理念を念頭に管理者と職員が一体となり理念の具体化に取り組まれている。利用者が6名の為全員が我が家の生活と同じように過ごされ、職員もやさしく利用者と同じ目線で接している。管理者は事業グル-プ全体の会議を通じ情報を入手し、常に職員の介護技術の向上や、職員のストレスを取り除く努力がなされているためか、利用者全員が生き生きとした表情で生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では特に改善課題はなかった。昨年管理者が変わられたが、民家改造型の利点を生かした小規模ホ-ムの運営がなされており、また運営推進会議などを通じ更に地域の方達との交流も深まっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 事業所全体で自己評価・外部評価を実施する意義を理解し、更に管理者は職員と自己評定の内容について、問題点・今後の改善目標などを明確にして、積極的に改善に取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の開催回数はやや少ない感じであるが、町内会長・老人会会長・民生委員・包括支援センター等出席メンバーも良く、各種意見提案がなされて地域に支援されたホ-ムとして、運営推進会議が開催されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はないが、家族の来所時には積極的に話し合いの時間をつくり、意見・提案などを聞きだし素早く対応し改善されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として、町内会の役員も引き受けている。散歩時における挨拶などや地域の様々な行事などに積極的に参加して、地域との連携に努力されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域住民との交流の下で、一人ひとりの生活スタイル・意志・能力などを尊重した介護サービスを理念に全職員が一体となって取り組む姿勢が感じられる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を十分理解し、毎朝理念を声に出して朗読し、その日の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事など情報を集め、それに出来るだけ利用者と職員が共に参加し交流に努めている。地域の一員として町内の役員も引き受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は自己評価と外部評価の意義を十分認識し、問題点を共有化して全職員改善に積極的に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	有意義な運営推進会議が開催され、建設的な意見・提案がなされて改善に努力されている。また、会議の出席メンバーも適切である、これからは、二ヶ月に1回は定期的に開催されることが望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所轄の地域包括支援センターが開催する研修会には積極的に参加し、また町主催の各種行事にも参加して、地域住民の声を集めサービスの質の向上に努力されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族に送付する毎月の請求書の中に、自筆の手紙で一ヶ月の報告がなされている。金銭管理は家族来訪時に確認をして頂き、金銭ノートに押印をいただいている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されている。家族来訪時にご意見など十分聞きだし業務の改善・介護サービスの向上に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業の拡大に当り、やむを得ず職員の人事異動を行うが、引継ぎ期間を十分設け、利用者には不安を与えないよう配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアアップには積極的に取り組まれており、毎年研修プログラムを作成し、社内・外の研修を職員の能力に応じ受講させて、介護サービスの向上に努力されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループレッスン協会の研修・講演会に積極的に参加しながら、同業者と交流する機会を通じ、能力の向上介護サービスの質の向上に努力されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にこれまでの暮らしの状況を聞き、生活歴を作成し、今までの生活に近い環境を家族と相談の上で作り、利用者の不安を取り除き安心して生活ができるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、常にありがとうという感謝の気持ちを大切に、利用者の意志を尊重し、能力・趣味に応じて利用者との行動を共にし、日々の変化を見落とすことの無いよう注意し、お互いに信頼し支えあえる関係の構築に努力されている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小人数のグループホームの利点を活かして、家族や利用者の希望や思いを十分把握し、介護サービスに反映させ、少しでも利用者に満足していただける介護を目指し努力されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見をしっかり聞き、ケアマネ・管理者で会議し十分話し合いの上で、利用者主体の介護計画が作成されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月の計画を作成し、対応できない利用者・家族の要望や変化が生じた場合には、実情に対応した介護計画に見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族・利用者のニーズに沿った支援をモットーに、その時々要望に応じて、関連事業所の保持している機能の有効活用が出来る体制が確立できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関・かかりつけの医師に受診出来るよう配慮がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や・家族に入居前に終末期の希望を聞くようにしているが、再度家族・医療機関と協議を行い、最良の方策が取れるよう職員全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングにてプライバシーの確保の重要性を徹底している、個人記録の取り扱いに注意し管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が毎朝利用者の体調を把握し、利用者のペースに合わせ、本人の意思を尊重した支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	、 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好き嫌いの把握をしている。職員と利用者が一緒に、また利用者の能力に応じ食事の準備、盛り付け、片付け等を行い、職員も同じテーブルで和やかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週3回に決めているが、利用者の体調や希望に合わせて、楽しい入浴を目指し努力されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を参考に、季節の良い時は散歩や家庭菜園・花壇作り等、その人を活かした役割支援が出来ている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホ - ム内の散歩だけでなく、その日の本人の気分や希望に応じて、日々の買い物と一緒に出かけるなど、気分転換を図る努力がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	季節の良い時など玄関は開放している、2階入り口のみセンサーを設置しているが、全職員が主旨を理解し鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間緊急連絡マニュアルも作成されており、年2回消防署立会いの訓練を実施している、今後利用者の重度化に対し、夜間の避難に地域の住民の方たちの協力・支援が得られる様に、運営推進会議での更なる協力依頼が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量・加味・水分量他きめ細かく管理された支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を生けたり、リビングには季節の壁画や作品などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の希望を取り入れ、また家族と相談の上、今まで使い慣れた好みの品などを持ち込み、安心して居心地良く暮らせる工夫がなされている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームよってきんさい府中

評価年月日 平成21年 2月 15日

記入年月日 平成21年 2月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 大植 貴子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開設当時より独自の理念を作っている。その1つに地域に密着したホームを目指すに掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の生活の中で理念を心に留めながら仕事をしている。 事あるごとに話をし、共有化に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族の方々には、行事等の出席や、面会等を通して、地域の方々には、推進会議や、町内会の集まりを通して理解してもらえるよう取り組んでいる。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時や顔を合わせた時、必ず挨拶をしている。 近所の方も声を掛けて下さる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の一員として町内会の役を引き受けている。ご近所から銘品を頂いたりして気を掛けてくださる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	利用者の方が近位の方が多くグループホームの活用の仕方等、地域運営推進会議を通して話し合っている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年に2回自己評価を行い、不十分な点については、話し合いを行い、改善に向け取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議時ホームの様子と行事等の報告を兼ねてカラーの紙面を配布、ご意見や地域の様子(行事)等を話して下さり、生き生きサロンにも毎回参加している。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町主催の研修、指導には積極的に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修に参加している。必要な人には支援をし、活用している人がある。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々のケアの中でお互いに注意を払い防止に努めている。虐待はありません。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時には詳細に説明をし、理解、納得後押印して頂いている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々のケアの中で、何でも言える環境づくりをしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月請求書と一緒に1ヶ月の様子を手紙に書き、お知らせしている。又、面会時にもお伝えしたり、金銭ノートの確認をして頂き、印鑑を頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関には、苦情箱を設置している。又、面会時には、話す機会を設け、意見を聞くようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に2回自己申告書を書いている。日々の中でも声をかけたりして、意見を聞くようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	外出、受診等、利用者に合わせ、勤務を調整している。職員とも話し合いを行い、理解してもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動等は、最小限におさえる様にしている。新しい職員がなじめてから、異動するなど、ダメージを少なくする様配慮している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年毎のプログラムを作り、社内、外の研修を行っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協会の研修、講演等に参加する事により質の向上に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員互助会のスポーツ大会、懇親会を通して、話を聞いたり、軽減のための工夫をしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>自己目標の導入に依り各自の努力実績を把握し、各自の向上心を高めるよう努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入居前に面接を行い、思いなどを細かく聞くようにしている。又、利用後もかかわりを多く持ち、ゆっくりと話を聞く様にしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前面接で、御家族からも細かく話を聞く様 にしている。又、入居後も面会等を利用し、細 かく様子をお伝えしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている 支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族よりしっかりとお話を聞き、必要な サービスを見極め、他サービスとも連携し、支 援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サー ビスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰 囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前訪問や、茶会等を通じコミュニケーション を取る等の工夫をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごし ながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている	主は利用者様ととらえている。何事があっても 共生の心で「ありがとう」と応えている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共 にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	一緒に支えていくという思いを持ち、面会時を 利用し、しっかりお話をする様にしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が 築いていけるように支援している。	関係をふまえた上で、両方がよりよい関係でい られる様に間に入り、支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>墓参り、自宅への外出、公民館や習い事等に行き、馴染みの関係継続を支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>リビングの席は、相性を考え決めている。又、ソファを設置して、関わり合いが出来るようにしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>終了時は、看取り退居が殆どなので、退居後の家族の関係を大切にしている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のケアの中でも、思いなどを聞く様になっている。又、1ヶ月に1回見直し時にしっかり希望や困っている事などはないか聞く様にしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居前訪問を致し、生活暦等の把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>バイタルチェック、食事摂取状況、排泄表、介護記録などで、心身状態等把握している。又、アセスメントを細かく記入し、個々に合ったサービスにつなげるよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意見をしっかり聞く様にしている。 その上で、担当者会議（ケアマネ、管理者、ケース担当）で話し合いを行い、介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月に1回見直しを行っている。状態変化時には、変更し、見直しを行い、状態を詳しく記入する様にしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活日誌に日々、一方的な記録にならない様に細かく記入している。特変があった場合には、赤線を引き分かりやすくし、情報を共有する様にしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて他部署とも連携を図り支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、町内会、中学生の職場体験、消防署の防災訓練等の協力を支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて地域ほう括支援センターと協力し、支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域支援センターと協働し、支援している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に希望をお聞きしかかりつけ医につないでいる。週1回往診する整形外科、耳鼻科、皮膚科、歯科医とも連携し、急変時の対応支援をしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医は、認知症を理解している。往診時は、利用者の思いをしっかりと聞いて下さる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師の配置をしているが、家庭医及び家庭医看護師と協働している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には1日1回は必ず様子を見に行ったり、必要であれば付き添いをしている。又、病院内関係者とも、情報交換する様になっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居前に終末期の希望を聞く様にしている。 又、状態に合わせて話し合いを行い、方針を決めている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>家族にも、しっかり話しを行い、出来る事、出来ない事を明確にしている。かかりつけ医と協力し、週末期に取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>家族や他事業所へ情報提供を行い、ダメージが少なくなる様に心掛けている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>対応に気を配って行っている。記録等は鍵付きに納められている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>おやつ時の飲み物の選択や買い物時の品物選びなど自己決定が出来る様に支援している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のペースに合わせ、先走りのケアにならないように見守りを大切にしている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近所の理美容店へ出向いている。日々の着衣にも支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居時に好き嫌いの把握をしている。食事の準備、盛り付け、食事、片付けを協働でやっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が嗜む、嗜好品等は個々の状況に合わせて、楽しめるよう支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排尿のパターンを把握し、自立に向けて、トイレ誘導、声かけを行っている。又、個々に合わせて、パット等使用している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日々の入浴タイムを、希望にあわせて入浴してもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼食後2時間程度、お昼寝が必要な方はして頂いている。温室、寝具等気持ちよく寝られる様配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家庭菜園、花壇作り、ご自慢の料理作り等、その人を活かした役割支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理の出来る方は、御自分で預かり金管理をしている方もいる。どちらも買物のときには、なるべく自分で支払いをして頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日々の買物にスーパーに出掛けたり、散歩時近所のパン屋さんへ立寄ったりと支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年2回温泉旅行に行っている。花見や、秋のバスツアー、家族にもお声かけして行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は何時でもやり取りが出来るようにしている。日に1回は必ず字を書く作業の支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも宿泊や食事が出来るようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	実践している。行政発行の資料や、マニュアルで理解している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員が理解し実践している。天候の良い日には、玄関も開放している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士声を掛け合いながら、目線から落とさない様にしている。 夜間、歩行不安定の方には、ベッド下にセンサーマットを設置している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤等、経口による危険物等は、目の届かない所に保管しているが、居室内には個々の状態に応じた取り組みをしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成している。年2回避難訓練を実施している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	マニュアルを作成し、吸引器の使い方、ベット上での姿勢等訓練している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回定期訓練を実施している		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	リスクマネジメントの勉強会を実施し対応に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、健康チェックをしている。 異変に気づいた際には、主治医、看護師に報告し、早期対応に努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	生活日誌に医療欄を作成しており、誰でも見られる様にしている。又、臨時薬が出た場合は、申し送りノートへ注意事項、薬の名前を記入し、分かりやすくしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘がちな方には、毎朝牛乳を飲用して頂いている。 又、散歩や日常生活の中で運動を行っている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、全員洗面所にてはみがきをして頂いている。 歩行が難しい方には、洗面器を持参し、その場で口腔ケアを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事、水分量を詳しく記入している。 又、摂取量の少ない利用者様には、バナナ、エンシュア やのどごしの良いもの(ヨーグルト、プリン等)を摂取して頂いている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザの予防接種を利用者職員とも受けている。常に手洗い、うがいを徹底している。又、マニュアルを作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器は乾燥機にかけ消毒している。まな板、台拭きは、毎日ハイターにつけ消毒している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、手作りの看板をかけている。天気の良い日には、気軽に入って頂ける様に玄関のドアを開けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には、季節の花を生けたり、リビングには、季節の壁画や作品を貼っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人が気分良く過せる場所になっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具やなじみの物を持ちこんで頂き、相談しながら居室作りをしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に変換を行い、季節、朝、夕の温度調節等こまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	民家改造の為段差はあるが、段差の前には、声掛けを行い、注意力を持って頂いたり、階段昇降は必ず付き添い、転倒防止をしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の出来る事は見守り、援助を行ない自立に向けた共生をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭で野菜や花畑を作ったり、外でのお茶を飲んだりしている。		